

道徳(小学校)

道徳の時間の目標は、どう改善されたのか。

道徳の時間の目標については、学習指導要領の中で以下のように示されている。
(下線部は、現行学習指導要領に新たに追加されたもの。)

(「第3章道徳」の「第1 目標」後段)

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的实践力を育成するものとする。

外国語
活動の新
設による
追加

人格の基盤を形成する小学校の段階においては、児童が道徳的価値の自覚を深め、自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である。

このことは中学校段階において、道徳的価値の自覚を基盤とした人間としての生き方について自覚を深めることに発展していく。

児童は、道徳的価値の自覚を深める過程で同時に自己の生き方についての考えも深めているが、特にそのことを強調して指導することが重要である。

道徳的価値について

- ① **道徳的価値についての理解**
道徳的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。
- ② **自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること**
そのことに合わせて自己理解を深めていくようにする。
- ③ **道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること**
その中で自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。

道徳の時間の目標は、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度で構成される**道徳的实践力を育成**することであり、そのことは現行学習指導要領と何ら変わらない。ただ、道徳的価値を深めるとともに、**自己の生き方についても考えを深めることを重視**するようにした。